

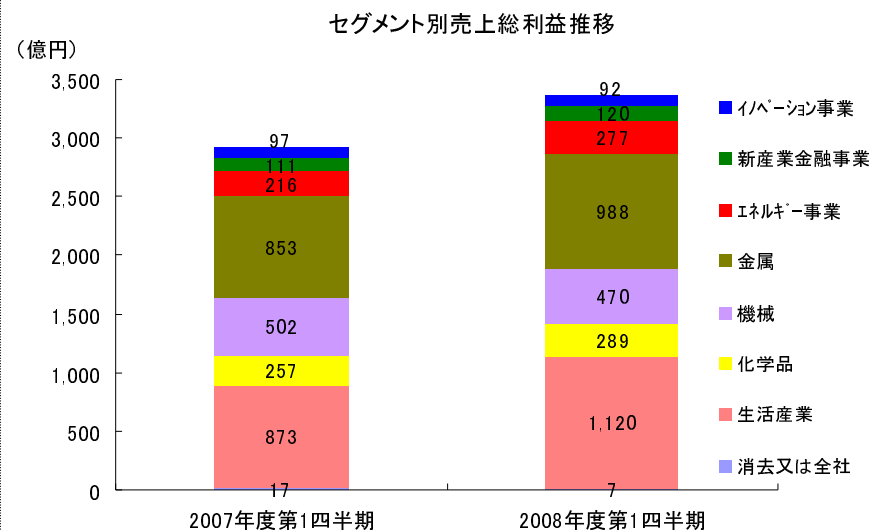
# 2008年度第1四半期 決算公表参考資料

2008年7月31日

三菱商事株式会社

## 主要PL項目の前年同期比増減

(億円)	2007年度 第1四半期	2008年度 第1四半期	増減	増減率	2008年度 通期見通し	達成率
売上高	54,552	62,439	7,887	14%	250,000	25%
売上総利益	2,926	3,363	437	15%	16,500	20%
営業利益	933	1,137	204	22%	6,850	17%
当期純利益	1,229	1,372	143	12%	5,800	24%
基礎収益	1,629	2,004	375	23%	10,000	20%



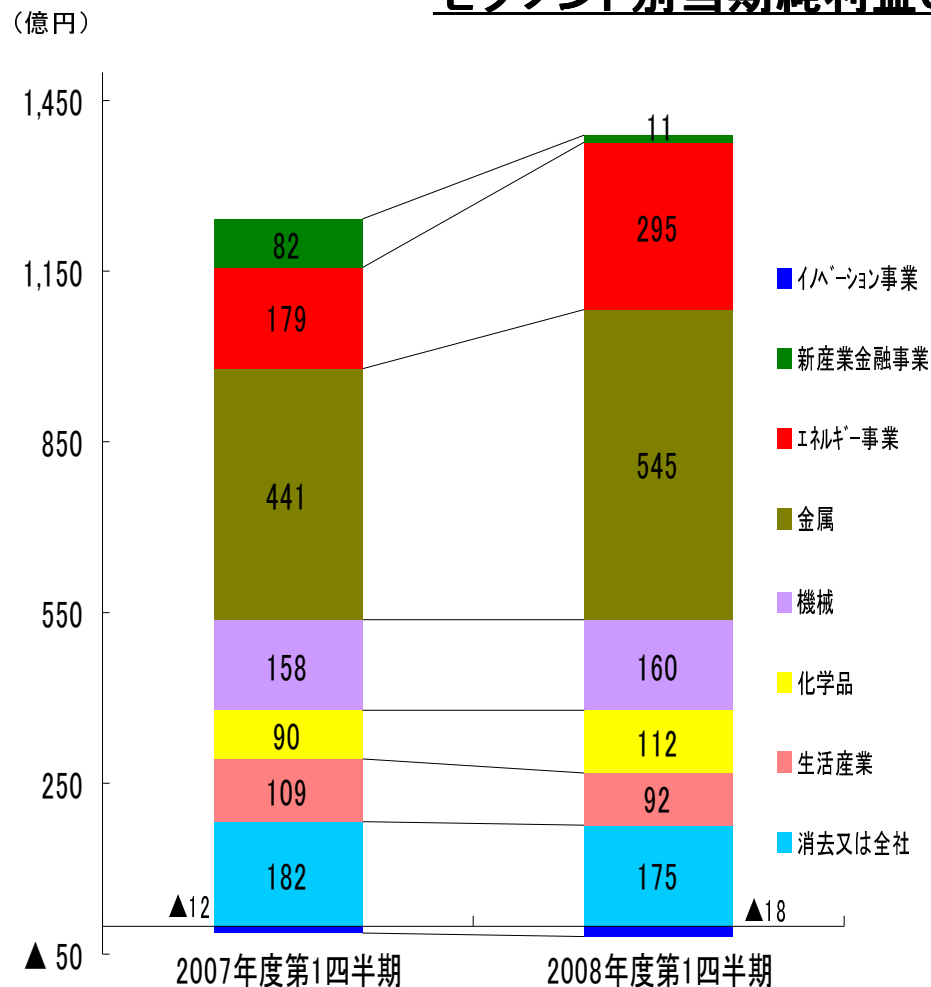
### 過去のトラックレコード（四半期ベース）

※四半期決算を開始した2000年度第3四半期以降が比較対象

- 売上高 ……過去最高  
(従来の最高は2007年度第3四半期の6.1兆円)
- 売上総利益 ……過去最高益  
(従来の最高益は2007年度第2四半期の2,982億円)
- 営業利益 ……過去最高益  
(従来の最高益は2006年度第1四半期の1,085億円)
- 当期純利益 ……過去最高益  
(従来の最高益は2006年度第1四半期の1,244億円)
- 基礎収益 ……過去最高益  
(従来の最高益は2006年度第3四半期の1,778億円)

本資料では、米国会計基準の規定に従い、2007年度第1四半期の実績を修正再表示しています。

## セグメント別当期純利益の前年同期比増減



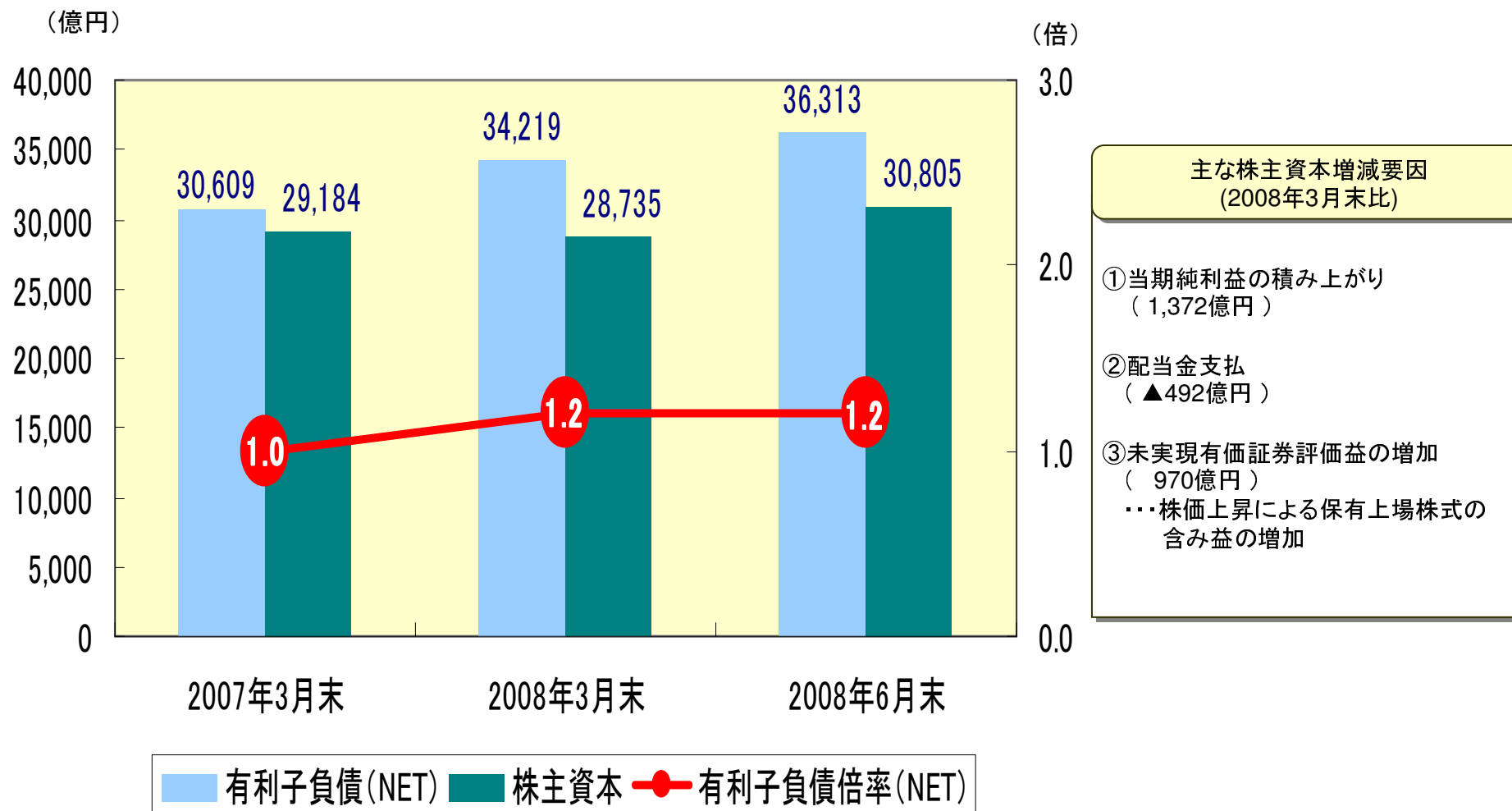
### セグメント別増減理由

- イノベーション事業(6億円の減益)・・・情報・通信関連子会社における取引低調による利益減少ほか
- 新産業金融事業(87%減益)・・・前年同期における三菱UFJリース株式みなし売却益の反動減、及びファンド投資関連収益の減少
- エネルギー事業(65%増益)・・・原油価格上昇による海外資源関連投資先の持分利益及び受取配当金の増加
- 金属(24%増益)・・・資源価格上昇による取引利益や配当収入による利益増加
- 機械(1%増益)・・・欧州自動車関連会社の売却による持分損益の減少があったものの、備船市況の高騰が寄与しほぼ横ばい
- 化学品(24%増益)・・・親会社における取引好調及び石化事業関連会社の持分上昇に伴う持分法損益増による増加
- 生活産業(16%減益)・・・株式評価損による利益減少など

### 資源価格の推移

	2007年度 第1四半期	2008年度 第1四半期	増減
油価(ドバイ)(\$/BBL)	64.8	116.9	52.1
銅価格(\$/MT)	7,650	8,443	793
アルミ価格(\$/MT)	2,762	2,940	178

## 株主資本と有利子負債の増減



## 商品市況・為替・金利の影響

### 商品市況・為替・金利の状況

	第1四半期の状況 (4-6月平均)	通期見通しの前提	増減	当期純利益に対する損益インパクト
為替(YEN/\$)	104.6	105.0	▲ 0.4	1円円安につき年間27億円の増益インパクト
円金利(%) 3ヶ月TIBOR	0.84	0.90	▲ 0.06	取引利益や投資利益により金利上昇の影響は相殺される部分が相当あるが、金利上昇が急である場合には一時的に影響を受ける。
US\$金利(%) 3ヶ月LIBOR	2.75	2.80	▲ 0.05	
油価(トバイ) (\$/BBL)	116.9	85.0	31.9	\$1上昇につき年間10億円の増益インパクト
銅地金(\$/MT)	8,443	7,937	506	\$100上昇につき年間8億円の増益インパクト
アルミ地金(\$/MT)	2,940	2,900	40	\$100上昇につき年間10億円の増益インパクト



損益への影響はタイムラグがあるケースもあるものの、  
商品市況は通期見通しの前提を上回る水準で推移している。